

アフガニスタンの麻薬流通対策をUNODC、日本及びロシアが支援

先日、ロシア内務省職員技能向上施設（ドモジェドヴォ訓練センター）にて、アフガニスタン麻薬取締警察による麻薬流通対策を支援するための一連の研修プログラムの最後のセッションが終了した。本研修は、アフガニスタン麻薬取締警察が非合法的な麻薬を取り締まる上での作戦的能力を向上させることを目的として、UNODCのアフガニスタン及びその周辺国を対象とした地域プログラムの枠内で実施された。

本研修開始記念式典において、フェドートフUNODC事務局長は、ドモジェドヴォ・プロジェクトが、責任を共有してアフガニスタンの問題に対処するという姿勢が示された一例であると述べた。同事務局長は、アフガニスタン国家警察の麻薬流通取締能力向上に対するアフガニスタン、日本及びロシア連邦のコミットメント及びUNODCとのパートナーシップに関して賞賛の意を示し、「特に2014年以降アフガニスタンが直面している問題を勧告すれば、ベスト・プラクティスを広めていき、関連する専門的知識を地域において共有することはますます重要になってきている」と述べた。

国際的なカリキュラムに基づく本研修プログラムは、ドモジェドヴォ訓練センター、ロシア内務省、ロシア連邦麻薬流通監督庁、ロシア税関及び集団安全保障条約機構（CSTO）の主だった専門家によって実施され、また日本の厚生労働省麻薬取締部の上級専門家も参加した。このイニシアチブは、UNODC、日本及びロシアの間の関係を強化するとともに、特に2014年の国際治安支援部隊（ISAF）撤退後のアフガニスタン及び中央アジアを支援していくために、これら3者の共同作業をさらに拡大していく上での基盤を作り出している。

在ロシア日本国大使館小野健参事官は、「このプロジェクトは、日本とロシアが非常に重視しているアフガニスタン麻薬流通対策における有意義な協力である。日本は、この分野において、ロシアとの協力を継続していくつもりである」と述べた。デミドフ・ドモジェドヴォ訓練センター所長は、この共同イニシアチブに対する歓迎の意を示し、用いられた技能や組織犯罪対策に関する国際標準を集約した幅広い研修カリキュラム（によって本研修セッションが行われたこと）を強調した。

本研修セッションと並行して、欧州安全保障協力機構（OSCE）がアフガニスタン麻薬取締警察のための別のセッションを実施した。このセッションに参加した（アフガニスタン人）研修生のグループは、日本の（厚生労働省の）専門家の講義を受け、UNODCが支援している本研修セッションの（アフガニスタン人）研修生のグループとベスト・プラクティスを共有した。